

## 「偽りの父」

ヨハネの福音書 8:41~59

### 1. かたくな

8:41 あなたがたは、あなたがたの父のわざを行っています。彼らは言った。「私たちは不品行によって生まれた者ではありません。私たちにはひとりの父、神があります。」

不品行、ヘブル語でゼヌーニーム(זְנוּנִים)は「売春、姦淫、淫行」などの意味持っていますが、ここでの主張は「ひとりの父、神」がある、つまり私たちにとって神様はただお一人だと言っているの、この不品行は靈的姦淫、神様以外のものに依存し、聞き従うこと、すなわち偶像礼拝を意味しています。ユダヤ人たちの主張は「私たちは偶像礼拝をしていない」そして「神はただお一人である」それが「私たちの父だ」というものでした。たしかにこの当時のイスラエル、ユダヤ人たちは、かつてバアルやアシェラ、モレクなど、異教の神々を崇拝していた旧約の時代の時とは違い、外国の侵略、捕囚や迫害などの試練の中で聖書、律法を学び、これに従って生きることには立ち返り、かつての偶像礼拝をすべて捨て去っていました。しかしイエシュアは、そこにも大きな誤り、偽りがあることを指摘されます。

8:42 イエスは言われた。「神がもしあなたがたの父であるなら、あなたがたはわたしを愛するはずです。なぜなら、わたしは神から出て来てここにいますからです。わたしは自分で来たのではなく、神がわたしを遣わしたのです。」

アブラハムを自分たちの父とすることを覆されたユダヤ人たちは、次に神様を父だと主張します。しかしそれも「神がもしあなたがたの父であるなら、あなたがたはわたしを愛するはずです。なぜなら、わたしは神から出て来てここにいますからです。わたしは自分で来たのではなく、神がわたしを遣わしたのです。」と言われ、その主張を覆されます。たしかにユダヤ人たちは神様の御言葉である律法に立ち返ったのですが、律法に書かれていることが、厳格な命令と禁止の事項としてしか捉えておらず、これがメシアであるイエシュアについて書かれたものであるということを理解していませんでした。この時のユダヤ人たちの状態が、イザヤ書に預言されていました。

### イザヤ書

63:16 まことに、あなたは私たちの父です。たとい、アブラハムが私たちを知らず、イスラエルが私たちを認めなくても、主よ、あなたは、私たちの父です。あなたの御名は、とこしえから私たちの贖い主です。

63:17 主よ。なぜあなたは、私たちをあなたの道から迷い出させ、私たちの心をかたくなにして、あなたを恐れないうようにされるのですか。あなたのしもべたち、あなたのゆずりの地の部族のために、どうかお帰りください。

このように、ユダヤ人たちはメシアを、御国を待ち望んでいるにもかかわらず、それがこのイエシュアであるという事実に対して認めることができません。この預言にあるように、神様に対して「あなた」つまり神様がイスラエルの子孫である彼らをかたくなにされるということが預言されています。つまりユダヤ人たちがイエシュア

のことばに耳を傾けることができないのも、イエシュアを殺そうとすることもすべて神様による神様のご計画だということなのです。なぜ神様は彼らユダヤ人たちをこうもかたくなにされた、つまりイエシュアを信じさせないようにされたのでしょうか。このユダヤ人たちのかたくなさの意味を、ローマ人への手紙の中でパウロがこう説いています。

#### ローマ人への手紙

11:25 兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思うことがないようにするためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、

11:26 こうして、イスラエルはみな救われる、ということです。こう書かれているとおりです。「救う者がシオンから出て、ヤコブから不敬虔を取り払う。

11:27 これこそ、彼らに与えたわたしの契約である。それは、わたしが彼らの罪を取り除く時である。」

11:28 彼らは、福音によれば、あなたがたのゆえに、神に敵対している者ですが、選びによれば、父祖たちのゆえに、愛されている者なのです。

11:29 神の賜物と召命とは変わることがありません。

ユダヤ人たちのこのかたくなさが、後に異邦人に福音が及んでいく結果をもたらします。今日私たち異邦人の教会がイスラエルの神である主を知り、聖書を学び、イエシュアを信じることができるのも、すべてこのユダヤ人のかたくなさのゆえなのです。なぜならユダヤ人は異邦人に自分たちの神様について教えたり、信じることを勧めたりしないからです。選民意識の強い彼らは、自分たちだけが神様に選ばれており、異邦人は滅ぶべき存在だと考えているからです。しかし神様のご計画は、アブラハムの子孫である彼らユダヤ人によって、地上のすべての民族が祝福されることです。

#### 創世記

12:1 主はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。

12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。

12:3 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」

地上のすべての民族、つまりアブラハム、イサク、イスラエルの子孫であるユダヤ人と、それに繋がろうとするすべての異邦人です。その異邦人に福音が宣べ伝えられ、救われるべき者たちが起こされ、異邦人に対する神様の救いのご計画が完成した時、すなわち空中再臨、空中携挙によって引き上げられた後に、ユダヤ人たちに対する神様の救いのご計画が現されるということだと考えられます。

神様のご計画とは、決して変わることはない、何ものにも揺るがされることのない初めから終わりまで 100% 神様だけの力によって成し遂げられる絶対の計画なのです。ですから人の努力や能力、また信仰の行いに頼る

ことも、また逆に人のかたくなさ、弱さや愚かさ、そして悪魔のどんな策略によっても、これを阻むことはできないということを示すために、神様は、敢えて人をかたくなにされると考えられます。

## 2. 悪魔

8:43 あなたがたは、なぜわたしの話していることがわからないのでしょうか。それは、あなたがたがわたしのことばに耳を傾けることができないからです。

しかし、だからと言って神様が人の心を支配し、罪を犯させるわけではありません。人を騙し、神様のご計画に対して耳を傾けることを阻む、人をかたくなにさせる存在がいるのです。それが悪魔です。その悪魔についてのイエシュアの貴重な言及が次に記されています。

8:44 あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立ってはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。

まず悪魔には「欲望」があることが示されています。この欲望と訳されているヘブル語タアヴァー(תַּאֲוָה)が聖書で初めて使われているのが創世記 3:6 です。

### 創世記

3:6 そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。

これは有名な人類最初の罪、悪魔に騙されたエバ、そしてアダムの罪を描いた箇所です。この欲望、タアヴァーによって人は罪を犯すのです。善悪を知る木から食べてはならないという神様からの命令を、このタアヴァーが無視、否定、若しくは上回ったのです。つまり悪魔とは、このタアヴァーを持つ者であり、神様の命令、ご計画に従わない者であることが解ります。そしてこの創世記 3:6 に描かれているようにタアヴァーは「良く、賢く」なりたい、つまり上昇志向、他者より上へ、他者より大きく、自分が一番になりたいという考えをも意味しています。

そして次に悪魔は「初めから人殺し」であることが記されています。ここで人殺しと訳されているヘブル語ラーツァハ(רָצַח)が聖書で最初に使われるのが出エジプト記 20:13 です。

### 出エジプト

20:13 殺してはならない。

この箇所は有名な「十戒」と呼ばれる、神様がモーセを通してイスラエルの民に与えられた律法について書かれている箇所です。つまりラーツァハとは「殺してはならない」という「律法に違反する」こと、神様の命令

に逆らうことを意味していると考えられ、律法の体現者であるイエシュアにとって悪魔はまさに相反する存在、であり、初めから、すなわち天地創造の初めから、悪魔はそのような性質をもって存在していたということです。

そして悪魔とはすなわち偽り者、偽りの父だとイエシュアは言われました。「偽り」はヘブル語でシェケル(שֶׁקֶל)と言います。このシェケルが聖書で最初に用いられる記述が出エジプト記 5:9 です。

#### 出エジプト記

5:9 あの者たちの労役を重くし、その仕事をさせなければならない。偽りのことばにかかわりを持たせてはいけぬ。」

アブラハム、イサク、ヤコブの死後 400 年の後、イスラエルの民がエジプトの奴隷だった時代、モーセによって神様は奴隷解放を宣言されました。しかしその宣言をエジプト人たちはそれをシェケル、神様の言葉を偽りだと言ったのです。つまり偽り、シェケルとは神様を偽りとする、神様の言葉、神様のご計画を偽りだということの意味していると考えられます。そして「偽りの父」とは、父、アーヴ(אָב)をシェケルとすること、すなわち神(שֶׁן)の家(בַּיִת), 御国のご計画を偽りとする者だということです。するとどうということになるかというと、聖書が中身の無い、ただの厳しい規則になってしまうのです。ただ守れば良い、しかし一つでも破れば罰せられる、そして死ぬばそれで終わり、そんな考え方、教えに縛られたまま死ぬまで生きる、まさに奴隷、これが罪の奴隷です。このように、悪魔のもたらす偽りとは、偽りの情報を信じ込ませるために、神様からの情報、真理を否定し、これを偽りだと信じさせることなのです。

このように、神様がユダヤ人の心を操ってかたくなになるようにされたのではなく、悪魔がユダヤ人たちを誘惑して騙す機会を、神様があえて与えられた、あえて許可されたということです。その理由は先ほどローマ 11 章の記述で述べたように大きく分けて二つの理由です。

- |                                       |
|---------------------------------------|
| ①自分で自分を賢いと思うことがないようにするため → 誰をも誇らせないため |
| ②異邦人に福音が及ぶようにするため                     |

神様のご計画とは、神様の栄光のためになされるものです。神様だけがほめたたえられるためのご計画です。ですから誰をも誇らせないのです。ユダヤ人も、そして異邦人もすべての者が神様の御前でひざをかかめる、ひれ伏すためのご計画だということです。

8:45 しかし、このわたしは真理を話しているために、あなたがたはわたしを信じません。

8:46 あなたがたのうちだれか、わたしに罪があると責める者がいますか。わたしが真理を話しているなら、なぜわたしを信じないのですか。

8:47 神から出た者は、神のことばに聞き従います。ですから、あなたがたが聞き従わないのは、あなたがたが神から出た者でないからです。」

8:48 ユダヤ人たちは答えて、イエスに言った。「私たちが、あなたはサマリヤ人で、悪霊につかれていると言うのは当然ではありませんか。」

8:49 イエスは答えられた。「わたしは悪霊につかれてはいません。わたしは父を敬っています。しかしあな

たがたは、わたしを卑しめています。

この世界で、うそや偽りだと分かっていることを信じて受け入れる人がいるでしょうか。「これからうその話をします」と言う人の話を真剣に聞く人がいるでしょうか。もちろんそんな人はいません。悪魔はユダヤ人たちを騙し、イエシュアを偽り者としたのです。イエシュアを、当時ユダヤ人たちが毛嫌いし、一切交わりを持たなかったサマリヤ人扱いし、悪霊呼ばわりし、卑しめたのです。だから何を言っても、どれだけ正論を並べ立てて説得しても論証しても信じられないのです。ちょうど手品師が物を消したり出したりしても、「これは手品だからきっとタネがある」と私たちが思うのと同じです。どんなに大きな物を一瞬で消して見せられても、これは手品だから実際に消えたのではなく、何かのトリックだと思って見るのです。ですからここでイエシュアは「わたしを卑しめています」、神の御子であるメシアを、ペテン師や詐欺師、手品師よりももっとひどい、悪霊呼ばわりして卑しめていると言われたのです。

### 3. 栄誉

8:50 しかし、わたしはわたしの栄誉を求めません。それをお求めになり、さばきをなさる方がおられます。 イエシュアはご自分の栄誉を求めてはおられません。しかしイエシュアを遣わされた方、御父である神様はそれを求めておられるのです。

#### ヨハネの福音書

4:23 しかし、真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はこのような人々を礼拝者として求めておられるからです。

御父に栄誉を与える、ささげる人々である真の礼拝者たちを探し出し、御国に入る者として選び出し、そしてそれ以外の者たちとはっきりと区別する、分ける、すなわちさばくことが、御父のご計画である神の国を建て上げる究極の目的です。神の国は、人が神様の守りの中で安全で快適な暮らしをする所ではありません。天におられる私たちの父の御名があがめられる、神様に栄光が帰される場所です。なぜ神様は礼拝者たちを、神様を崇める者たちを求めておられるのでしょうか。人間などいなくても、神様は何も困らない、足りないものなどない、お一人で完璧なお方です。ではなぜでしょうか。それは神の家、御国を造りたいからに他なりません。たとえ国土を持っていたとしても、国民のいない国は国とは呼べないからです。そして神様はそれを地上に建てようとしておられます。天にはすでに万軍の御使いたちが、昼も夜も絶え間なく神様を賛美する世界が存在します。神様はそれを地にもなそうとしておられるのです。

#### マタイ

6:10 御国が来ますように。みこころが天で行われるように地でも行われますように。

そのために地に住む者たち、すなわち肉体を持った私たち人間が必要なのです。私たちの存在なくして神様のご計画は完成しないのです。だから私たちは神様に求められている、必要とされているのです。そしてそのご計画に逆らう存在である悪魔を指して、人間を殺す者「人殺し」と呼ばれたイエシュアの真意がここにあると考えられます。

#### 4. 死の支配

8:51 まことに、まことに、あなたがたに告げます。だれでもわたしのことばを守るならば、その人は決して死を見ることはありません。」

「決して死を見ることはありません」の「決して」はヘブル語ではオーラーム(עולם)「永続、永遠」を意味する言葉が使われています。つまり永遠に死ぬことがないのです。そしてそれはイエシュアの言葉すなわち御父の言葉を守る者に与えられる約束です。イエシュアは、御父はいつでも神の国、御国に焦点を当てて話されます。ですからこれは神の国に入った者たちを指して語っておられ、今のこの世でのことを言っておられるのではないと考えられます。なぜならイエシュアの言葉を完璧に守ることなど罪の奴隷である者たちにできるわけがないからです。逆に神の国に入るならば、もう二度と罪を犯すことがない、すなわち神様の言葉を完璧に守ることができるようにされる、変えられるので永遠に「決して死を見ることがない」ことになるわけです。

8:52 ユダヤ人たちはイエスに言った。「あなたが悪霊につかれていることが、今こそわかりました。アブラハムは死に、預言者たちも死にました。しかし、あなたは、『だれでもわたしのことばを守るならば、その人は決して死を味わうことがない』と言うのです。」

ユダヤ人たちはこの世の感覚でしか物事を考えることしかできません。この世の感覚、それは「死」に支配された考え方です。みんないつか死ぬ、そして死ねばすべて終わりという固定概念が、イエシュアの言葉を受け入れなくさせているのです。

8:53 あなたは、私たちの父アブラハムよりも偉大なのですか。そのアブラハムは死んだのです。預言者たちもまた死にました。あなたは、自分自身をだれだと言うのですか。」

実のところユダヤ人たちは、父と敬うアブラハムも、モーセやエリヤなどの預言者たちのことも、ただの死人としか見ていなかったようです。死ねば終わり、つまり死より偉大な者などいないと言っているのと同じです。このように、結局彼らは神様よりも死を恐れ、死こそがこの世の支配者であると考えているのです。

#### 5. イエシュアの栄光

8:54 イエスは答えられた。「わたしがもし自分自身に栄光を帰するなら、わたしの栄光はむなしいものです。わたしに栄光を与える方は、わたしの父です。この方のことを、あなたがたは『私たちの神である』と言っています。」

「あなたは自分自身を誰だと言うのですか」というユダヤ人たちの問いかけに対して、イエシュアは「わたしの父」から栄光を与えられる者であると述べられました。ここに御父である神様と、御子であるイエシュアの決定的な違いがあります。御父は真の礼拝者たちからの栄誉を求めておられますが、イエシュアが求めておられるのは、御父から与えられる栄光です。つまり栄光とは、他者から与えられる、また受けるものであって自分で自分に与えるものではないということです。つまりこの栄光もまた、それをお受けになる神様が、それを与える存在である人間を求めておられる理由だと言うことができます。そしてイエシュアの求めておられる願い、イエシュアの喜びとは、御父から与えられる栄光です。義と認められ、その右の座に着座することなのです。



## ヘブル

12:2 信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせずに十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。

## 6. アブラハムの喜び

8:55 けれどもあなたがたはこの方を知ってはいません。しかし、わたしは知っています。もしわたしがこの方を知らないと言うなら、わたしはあなたがたと同様に偽り者となるでしょう。しかし、わたしはこの方を知っており、そのみことばを守っています。

8:56 あなたがたの父アブラハムは、わたしの日を見ることを思って大いに喜びました。彼はそれを見て、喜んだのです。」

アブラハムが見たもの、そして大いに喜んだもの、それは神様が与えて下さった約束が果たされることです。

## 創世記

わたしが示す地へ行きなさい。

12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。

12:3 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」

この約束が実現する日を見ることを思って、そしてその思いはまさに「目に浮かぶ」ほどに強まり、信仰によってこれを大いに喜んだのです。

## ヘブル

11:1 信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。

アブラハムはこれを、神様によって設計され、そして神様によって建てられる「堅い基礎の上に建てられる都」と呼びました。それはまさに神の国、御国を指し示しています。

## ヘブル

11:10 彼（アブラハム）は、**堅い基礎の上に建てられた都**を待ち望んでいたからです。その都を設計し建設されたのは神です。

神様の都、神の国、御国を「待ち望む」、それがアブラハムの信仰でした。先ほどの 8:53 でユダヤ人たちはその「アブラハムは死んだ」、つまり終わった、彼の信仰も喜びも終わったと言いました。しかしイエシュアは 8:56 で「わたしの日」に彼はそれを、神様が設計し、そして建てられる堅い基礎の上に建てられた都、御国を、その完成を、彼が信じて喜び待ち望んだように「見る」と宣言されました。

## 7. 隠される

8:57 そこで、ユダヤ人たちはイエスに向かって言った。「あなたはまだ五十歳になっていないのにアブラハムを見たのですか。」

8:58 イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。アブラハムが生まれる前から、わたしはいるのです。」

人は死に支配されて生きているだけでなく、時間に縛られて生きています。ですからオーラーム、永遠の存在であるイエシュアという言葉が理解できない、受け入れられないのです。

8:59 すると彼らは石を取ってイエスに投げつけようとした。しかし、イエスは身を隠して、宮から出て行かれた。

このように、ユダヤ人たちは偽りの父である悪魔のゆえにかたくなにされ、神様のご計画を示すイエシュアは彼らから隠されてしまいました。何度も申しますがこれはすべて神様のご計画によるのです。ですから私たちは彼らユダヤ人たちのかたくなさやイエシュアに対する殺意を嘆くことも非難することも必要ないのです。神様のご計画に、私たちが口をはさむ余地は一切ありません。ただ私たちはアブラハムがそうであったように、「はるかに見て喜び迎え、地上では旅人であり寄留者であること」を覚えることが重要です。

## ヘブル

11:13 これらの人々はみな、信仰の人々として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるかにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり寄留者であることを告白していたのです。

旅人や寄留者の目的はただ一つ、その目的の場所にたどり着くことだけです。その途上で、何かを「手に入れること」、つまり働きをして成功しようとか、何かを所有してそれを支配しようなどとは思いません。ただ目の前に置かれた道の一步一步が、その目的地である御国に近づいていることを確かな喜びとしながら、神の国を待ち望みながら、与えられた今日を生きることだと信じます。もし私たちがこの御国のこと以外のものに目を向け、目標とする時、私たちもこのユダヤ人たちと同じように、神様のご計画は隠され、イエシュアが、聖書が解らなくなってしまうでしょう。私たちの願いはダビデのように「ただ一つ」であるべきです。

## 詩篇

27:4 私は一つのことを主に願った。私はそれを求めている。私のいのちの日の限り、主の家に住むことを。主の麗しさを仰ぎ見、その宮で、思いにふける、そのために。

主の家、これもまた神の国、御国を指し示す言葉です。ダビデの願いはただ「一つ」、ヘブル語のエハード(אֶחָד)は「第一であり唯一」という意味です。つまり他には何もないのです。私たち一人ひとりの願いが、今日この御国という「ただ一つ」であるようにと祈ります。